

Computer Report

Vol. 58 No. 2 2月号 (通巻 761号)

はじめの言葉

■同一労働／同一賃金、聞いた瞬間の印象／耳障りだけは、けっこう良い。が叫ばれている背景には、国民の収入格差拡大の問題がある。早い話がこの話題、限りなく最低賃金の労働者層を前提にしている。要するに 3K (きつい、汚い、苦しい) 労働の現場での話と言える。代表例が介護労働市場である。耳障りの良い話だけをしている人間層に果たして、この問題を真剣に改善していこうという意思があるのだろうかと思う。

■朝鮮半島の緊張は、言うまでもなく今に始まった問題じゃない。この半島問題を緊張の道具立てに使っているのは、日米韓の三国だけではない。もう一方には、中国、ロシアの存在があつての戦後関係の結果である。北朝鮮が核も搭載可能な大陸弾道弾ミサイルを開発している事実、南沙諸島だけでなく太平洋も含めた海上進出を着々と進めている中国の動きに、本当に第二次大戦の後処理をしようとする意思があるのかと思う。

■自民公明連立の大勝ならぬ、野党連合失敗大敗の政界は、最早、安倍政権のテッパン看板になった「口先だけ」の一人歩き状態。森友／加計学園問題の「丁寧な説明」などどこ吹く風。これも大勝安倍政権の奢りの正体か。あれほど「記録はない」と前財務省理財局長に言い張られ、答弁されていた公式記録の存在が、今になって明らかにされた。何故今なのか。何が真の狙いなのか。本当に国民への説明責任を果たす意思があるのかと思う。

■当の佐川宜寿国税庁長官が、昨年7月の長官就任時に記者会見をしなかったのは周知の通り。その理由も今になって「税に関する以外の質問が出るからだった」と麻生財務大臣が事実上認めた。当の本人も含めて、政府関係者全員が自分たちの後ろめたさ／危うさを認識しているということだろう。国民を逆撫でする形でのやり口を次々と続ける彼らに国民感覚を理解しようという意思が本当にあるのかと思う。

■韓国での冬季オリンピックが始まる。この間の北朝鮮による相次ぐ軍事的挑発行為に対し、これを制止する目的の国連決議がされた。その主な内容は、北朝鮮に対する経済制裁を各国が足並みを揃えて臨むというもので、日米韓、中国、ロシアも同意している。にもかかわらず韓国は、国連の制裁決議に抵触する恐れを含む動きを北朝鮮との間で見せている。本当に韓国はオリンピックを成功させる意思があるのだろうか。

■再三の国家間交渉を重ねて調印された日韓合意の慰安婦問題が蒸し返されている。不快感を示した政府は安倍首相のオリンピック開会式への不参加を表明した。と思いきや、一転、参加をすると決めたらしい。これも漏れ伝わるところによると、アメリカ政府の要望によるものだという。憲法改正の声を高めている安倍政権／自民党だが、こんな軟弱さのままに国民を納得させる憲法改正をする意思があるのだろうか。

■日本の何もかもタガが弛んできているのではないかと思うことばかりである。国技とされる相撲協会も一連のゴタゴタ続きで、現理事長体制の崩壊が見て取れる。根本を正さず、足切り尻尾切りで修めようとする姿勢ばかりが見て取れる。膿を出し切ると言い切った池坊評議委員長だが、八角理事長以下、危機管理委員長、評議委員長も含め、膿の本体に思える。相撲界の出直しの意思の確認／有無を、彼らに望むべくもないか。(藤見)